

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とした一人一人の児童を大切に、自己肯定感を育む教育を推進し、社会に貢献できる心身ともに健康で知・徳・体のバランスの取れた人間性豊かな児童の育成をめざす。

○ やさしい子 ○ がんばる子 ○ げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の良さを捉え、知力・徳力・体力の向上させる学校 ○保護者・地域が安心して子供を通わせることができる学校 ○教職員が誇りをもって奉職できる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○心身共に健やかに、常に向上心を持ち、学校生活に取り組める児童 ○言葉で思考・判断し、言葉で表現できる児童 ○人権を尊重し、自己肯定感・自己有用感に富む児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画を理解し、その具現化に向かえる教師 ○不断の自己研鑽・自己啓発に励み、自らの資質・能力の向上に努める教師 ○服务意识を高く持つとともに、健康を管理しながら十分なる職務成果を上げられる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状

○児童について

穏やかで素直な児童が多い。朝会・集会など、時間内に全員そろい、静かに待機することができる。登校しぶり児童が2人（家庭問題）いるが、いじめ等が原因ではない。また、学級崩壊につながるような実態も見られない。学校では学習を真面目に取り組み授業中も落ち着いているが、応用・活用タイプの学習に課題があり、特に算数よりも国語の「正しく読む」力に大きな課題が見られ、学力調査でも落ち込んでいる。国語に関しては、日常的に音読を重視し、「黙読の音読化」を取り入れて読みの力を向上させていく。

○教師について

自己研鑽・啓発に努める教員が多い。しかし、「思考を促して考えさせる授業」の具現化に向かえる教師は少ない。管理職自らが指導に当たるとともに、可能な限り off-JT や OJT を取り入れて、教師自らが優れた授業の確立に進むように意識を高めさせる。

○保護者・地域について

温かく学校を見守ろうとする保護者が多い。初任者等も保護者から励まされることが多い。一方、教育に対する関心は家庭によって意識差が大きく、遅くまで起きている児童もあり、課題となっている。今後も保護者に向けて、学校が取り組む学力向上策の理解と啓発に努めていく。本校は開校当時から児童数の漸減傾向にあるが、選択区域内の他校への進学者が多く、本年度入学生は10名を割った。しかし、低学年からの外国語活動など、新たに5つの施策を導入し、児童数確保のみならず教育力の高い「安心・安全な教育校」としての歩みを始める。創立20周年を迎えることもあり、児童数減という課題に対して、地域・保護者とより一層、一体となって取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	国語学力と授業力の向上及び教員各自の専門性の向上	○	○	○	○	○
3	心身の健康づくり	○	○	○		

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
計画の100%実施を目指しつつ、主体的で対話的な深い学びの実現に向けて、基礎基本となる学習を確立させる		100%行う	100%実施済み	結果として学力調査の向上が現れにくい			○		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
新	外国語学習の全学年導入	英語	適宜	3年生以上はこれまで通り。1・2年生は主任が立てる指導方針を元にしてALTと協働して年間10程度の授業を行う。	年間計画に基づいて実施	予定授業の100%達成	100%実施	保護者に対しても好評であった	◎
新	オンライン学習の強化	国・社・算・理	日常的	全児童が日常的にe-ライブラリを活用して学習する	週一回の成績管理システムの点検	全児童の複数回アクセス100%	100%実施	おそらく区内でもトップクラスで実践できた	◎
継	パワーアップタイム	国・社・算・理	週3～4回	1回15分間。短時間で脳を最大限に活性化させる学習を行う。(音読・視写・計算等々)	教師によるノートやプリント等を点検する。	週3回以上実施	100%実施	重要な取組として定着した。	◎

継	放課後補充教室	国・算	週3回	学習に遅滞が見られる児童を選出し、個別に指導を行う。	授業における児童の変容を観察する。	週3回実施	100%実施	個による定着差が見られる。	◎
継	家庭学習の推進	国・算	毎日	宿題を家庭学習に位置づけ、毎日学年×10分程度取り組む。	宿題の提出。	取組児童90%	90成果あり	残り10%の児童が課題である。	○
継	学校及び公立図書館の活用と読書マラソンの継続充実	国	年間	自由読書50冊につき証明書授与1枚	校長が個々に表彰する。	表彰回数一人1回以上	6年生のみ到達できず	教員による意識の差を埋める必要がある。高学年が軽視しがちになる。	△
継	漢字検定 計算検定	国・算	月1回	定着を見取るために一ヶ月に一度適宜時間を使って実施する。	解答合わせによる点検。	80%以上正解	おおむね良好	80%がぎりぎりであった。個人差が表れた。	○
継	区調査総点検	国・算	1.3月再テスト 2月総復習	インターバル期間に総復習をする。	3月に成果を出す	全学年で区平均達成率を超えること	平均に届かず	(未記入)	△

重点的な取組事項－2		国語学力と授業力の向上及び教員各自の専門性の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・協議会付き授業研究を6回以上 ・全教員によるミニ研修会の実施 		・どちらも100%達成	教員たちが自負心を感じつつ実践できた。	良い取組になった	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
協議会付き研究授業	学級担任全員が100%行う	児童の実態を明らかにした上で、年間計画に基づいて積み上げ研究（研究授業での成果や課題を次の授業者が満足にする）を行う	他校も参加した実戦となった	研究視点から逸脱した協議になる点に留意して行った	○
ミニ研修会の実施	担任及び特定教科担当者が100%行う	各種研修会等で学んできた内容を、年間計画に基づいて伝達する	計画通り実施し、教員間で切磋琢磨して指導力向上に向かうことができた。	良い取組となった	◎

重点的な取組事項－3		心身の健康づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
PHF（体力・健康・食育）の充実を図る		オリパラ活動や保健指導等の計画を100%実施する	問題なく実践できた	オリパラ取組は3年目となっている。継続したい。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリパラ活動	本校独自のオリパラタイムやビヨンド等を100%実施する	年間計画に基づいたオリパラタイム（中休みの活用）やビヨンド活用を実施し、体力づくりに向かう。体育授業にも活用する。	コロナ禍であっても確実に嫉視した	教師間の温度差もなく実践できた	◎
保健指導	各学年年間1回の「体の授業」を確実に実施	月1回の保健だより発行とともに、コロナ対策を含めた養護教諭とのTTによる保健指導を実施する。3学年以上は体育とも関連付けて指導を行う。	医療機関1件で済んだ	特に問題なし	◎
心の教育	各学年年間1回の「心の授業」を確実に実施	年間計画に基づいてスクールカウンセラーと担任のTTによるSOS等指導を、全学年1回実施する。	いじめ相談箱事案が一件あったが特に問題は無かった。6年生女子1名が個人的心的事由で不登校であった。	不登校児保護者とは連携を良好に継続した	◎
食育指導	給食指導や栄養士とのTT指導年間1回を通して確実に実施	月一回の給食だより発行とともに体育や家庭科と関連させて、食への関心を高める指導を行う。	順調であった	特に問題なし	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

本校は事案となるいじめ問題がない。また、不登校は一件あるが、保護者と連携して指導を継続している。また子ども同士は全学年とも排他や阻害の雰囲気がなく、高学年になるほど良好な関係をつくっている。その中で課題は以下2点である。

<1 学習意欲はあるものの学力調査的な成果があがりにくい>

・校内研究を通して、中でも国語の読みの授業力はかなり向上した。一方、5年生に限っては算数が区平均通過率を20ポイントも下回っており、内容によらず活用型の問題が対応できない傾向がある。4年生が「算数のヤマ場」という説がある通り、4年生を境目に下降傾向が見られる。次年度からは、教科書に基づく算数授業の向上は重視するものの、新規で導入されるAIドリルを大いに活用し、児童個々の欠落点を正しく導き出し、そこを適切に補修する教育工学的な指導の在り方に目を向けていく。しかし、決してAIにお任せにするのではなく、あくまで教員がAI判定の根拠を理解し、個々のつまずきの原因を解明することを前提にして、「AIを知りAIを活かす」指導姿勢を重視する。

<2 児童数減少が止まらない>

・この現象は20年間続いており、簡単に止めることが難しい。そこでBの取組上位2つにある「低学年からの外国語活動導入」と「オンライン学習の強化」を「学校の目玉」として、地域保護者に前面に押し出してアピールしてきた。児童数減少阻止のためだけでなく、教育効果（児童の学習意欲及び教師の指導意欲の向上）として著しいものがあつた。これらは今後も継続していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

周年式典における式辞でも公言しましたとおり、本校は安心して安全な学校です。「人数が少ないからいじめなどが起きたときは編制替えもなく心配である」という声を聞きますが、いじめはこの3年間は一切ありません。そうした雰囲気を察知したことはありましたが、いじめになる前に全て解決しております。そうした教師集団であり学校風土です。どうぞ安心して入学候補校としてご選択ください。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校は教師の質といい児童の個性といい、すばらしい学校と思える。保護者からの苦情件数0はそれを物語っている。あとは児童の学力（特に知識技能面）を伸ばさせることが必須である。4年度もこれに向かって邁進していく。